

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センター鹿沼市あおば園			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～	令和7年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	130	(回答者数)	125
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 18日		～	令和6年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、音楽療法士、心理師の専門職を配置し、療育にあたっている。	・専門職の助言を踏まえ、こどもの発達課題に応じた支援の仕方等を工夫し、療育の質を高めるよう取り組んでいる。	・こどもの支援に関するミーティングで情報共有をしたり、専門職による園内研修を実施する。
2	・施設は古いが環境整備し、一人ひとりの特性、活動内容に応じて療育室の使い方を工夫し、安全に配慮しながら支援をしている。	・個別活動やグループ活動などの人数や、机上活動や運動あそび等の活動内容に応じて部屋を使用できるよう事前に部屋割りを行い、表を作って管理している。	・こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成し、その内容に基づいた活動設定や適切な支援に努めていく。
3	・保護者に療育中の支援場面を見る機会を提供し、こどもへの関わり方や子育ての参考にしてもらっている。	・療育で行った内容を家庭でもできるように置きかえて説明し、保護者と一緒にこどもの成長を促せるよう取り組んでいる。苦手な部分だけでなく長所に気づき、子育ての喜びを感じられるように支援をしている。	・療育場面や家庭で一人ひとりの状態に合わせて丁寧に対応できるよう、今後もこどもの様子を保護者と共有していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同志の交流などについて	・利用児が多く保護者のニーズが様々で対応が難しく、全員での集まりが難しい状況である。	・親子療育と年中児保護者を対象に研修を行っているが、その他に多くの保護者が参加できるよう研修会、交流会等開催内容を検討していく。 ・ニーズの把握に努め、それをふまえた会の設定方法を考えていく。
2	・安全管理について	・利用児が多く、利用時間も希望時間の要望が多く、利用者全体での避難訓練等を設定し実施することが難しい。	・引き続き親子療育では毎月職員と避難訓練等を実施していく。 ・避難経路等の周知に努めていく。
3	・情報発信について	・親子療育利用者は毎月おたよりを、あおば園通信は年2回発行している。あおば園自己評価結果をホームページに掲載しているが、ホームページがあることの周知が足りない。	・園内に掲示していることを周知していく。あおば園通信を見やすく工夫し、自己評価結果がホームページに掲載している旨を書き、多くの方に見えていただけるよう周知に努める。